

キク科 ヨモギ属

ヨモギ (蓬)

Artemisia indica Willd. var. *maximowiczii* (Nakai) H.Hara

自生環境

道ばた、野原 など

原産地

日本在来

生育を脅かす要因

交雑



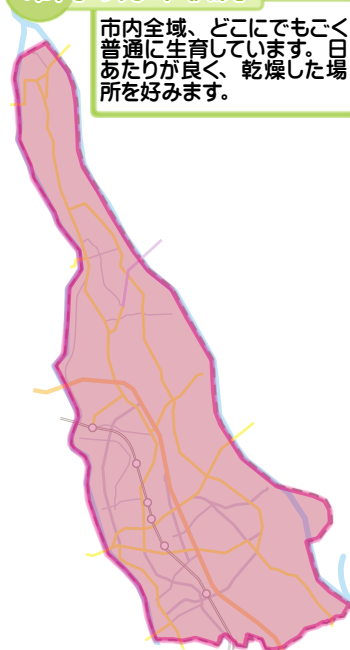
身近な場所にごく普通に、とても丈夫な草です。ただ近年は、工事とともに海外由来（中国原産種？）と思われるヨモギ類が急増していて、交雑などの影響が懸念されます。

特徴

- ☆ 身近な場所にごく普通に生える多年草で、しばしばあたり一面の群落を形成します。春に芽を出した後、茎は枝分かれしながらのび、夏には1m前後の草丈になります。9～10月頃、茎の中・上部に茶色い花をびっしりと咲かせます。
- ☆ 葉の形は個体差が大きく、また同じ株でもつく場所によってだいぶ変化します。葉柄と茎の接合部分には、仮托葉と呼ばれる小さな葉のようなものがあります。生育期の葉は表面は緑色ですが、裏面は白い綿毛に覆われています。全草に芳香があり、かつては邪気払いや魔よけの効果があると考えられていました。
- ☆ ヨモギの名前の由来は諸説あります。お灸に使うことから善燃草という説が多数派のようですが、真偽は不明です。

市内の分布状況

市内全域、どこにでもごく普通に生育しています。日あたりが良く、乾燥した場所を好みます。



有用だけど有害？

ヨモギの新芽は、やわらかくて香り高いため、草餅に入れたり、春の味覚として天ぷらなどにして食べられています。古くから薬草としても利用されており、現代でも乾燥させた葉は、健康茶や入浴剤に使われています。また、乾燥させた葉から取った綿毛はお灸に使われてきました。その一方で風媒花なので、秋の花粉症の主要な原因植物としての側面も持っています。

花は秋に咲く



春の新しい葉は
白い綿毛に包まれる



仮托葉という
小さな葉のようなものがある



小さな茶色い花が
何個か集まって
ひとつの花の
ようになっている



育ってくると
白い綿毛は
葉の裏側だけになる



わぴちゃんねる 千葉県野田市の植物を動画で紹介!

<https://www.youtube.com/channel/UCJvrXBjegnWATWd-UZsNzCA>

